

位置図



制約条件・主な課題(施工上の制約、設計のコントロールポイント等)

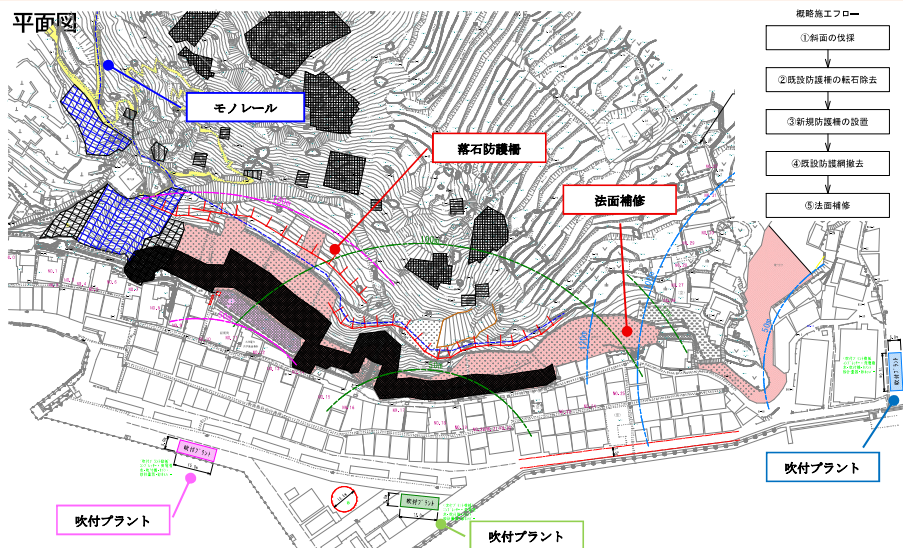
【制約条件】

- 家屋が近接し、法尻では施工ヤードの確保が困難(幅員 W=1.5m 程度)
- 資材は資材を積んだトラックごと台船で運搬する。
- 法面規模から工区分けが必須であるが、防護網の存置範囲やモノレールの設置など安全面と効率面を総合的に考慮した工区分けとなるように留意する。
- 支障物件:電柱、法肩付近のテレビ線など複数のケーブル配線あり

【主な課題】

- 伐採した樹木の搬出方法-①
- 既設防護柵に堆積する転石(概ねφ50cm 程度)はモノレールにて除去-②
- 法面補修時の仮設対策も兼ねて、落石防護柵を斜面中腹に設置(既設防護柵は再設置しない)-③
- 落石防護柵の資材は斜面上部の道路からモノレールによる搬入-③
- 既設防護網の撤去は、法尻に家屋が近接するため網を小分けに切断しながら撤去-④
- 吹付プラントは法面からホース延長 100m 圏内に設置(海岸付近や派出所前広場)-⑤
- 法肩から新規防護柵までモルタル吹付による落石対策を行う(既設防護柵は機能不全)-⑤

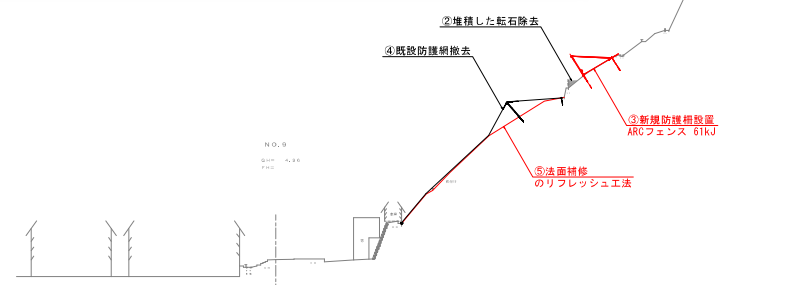
平面図



標準断面図

設計条件

- 対象落石:落石径φ50cm (既設の対象落石と同様/φ50cm以上は予防工にて対策済)
- 落石エネルギー:E=55.1kJ (既設の対象落石と同様/速度最大値となる落差 40mで計算)
- 比較工法:従来型防護柵・防護柵、小規模落石防護柵(自立支柱式は現地状況から施工困難)



施工者からの意見および対応方針

【改善事項】

- 斜面伐採時は、小枝や作業員の道具の落下に備えた仮設対策を法尻に設けるべきではないか。  
→法尻は家屋が近接し狭小であるため、木板など簡易な仮設対策を施す計画とする。

【確認事項】

- 伐採した樹木は、斜面上部での搬出が困難であり、法尻に降ろして搬出することが望ましい。  
→搬出可能なルートを選定し、施工計画に反映する。
- 既設防護柵に堆積する転石については、コンプレッサーなどで小割しながら撤去することが望ましい。  
→現地状況などを踏まえ、小割りに最適な機械を選定し、施工計画に反映する。
- 既設防護網は、サンダーなどで小分けしながら撤去することが可能であるが、火花が発生するため樹木などに燃え移ることがないよう注意が必要である。  
→樹木の伐根を行うなど火災に繋がる原因を排除するよう申し送り事項に記載する。
- 資材を運搬する台船は、一度に 10tトラックを 3 台載せることが可能である。  
→必要な資材の重量や規格を整理し、えい航回数を算出する。
- 現地状況が厳しいことは承知であるが、可能な限り、機械を使用するような施工計画となることが望ましい。  
→なるべく施工計画に反映できるよう検討を行う。